

## 機関評価結果 (H26. 7. 14)

1 運営方針及び重点分野					
評価点数	⑤ 0人	④ 6人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県が策定した中長期政策プランに沿い、「発展につながる産業づくり」に資するという明確な運営方針のもと、産業クラスター形成の支援を重点分野に位置づけた活動が十分なされている。</li> <li>・運営方針は、岡山県が掲げる行動計画「発展につながる産業づくり」に合致し、地域企業への技術支援による産業の振興を行っている。</li> <li>・重点分野は、県が特に力点を置いて進める施策に合致している。また、岡山県の特성에応じたテーマ設定がなされている。</li> <li>・現環境の中では、その運営は極めて優れていると思える。但し、今後の産業界はグローバル化を目指すか、新規事業を起こす以外、極めて厳しいと想定される。こうした中で、岡山県の長所をもっと明確化し、その長所を一層進化させる新しい研究課題に重点を置くべきでないか。</li> <li>・実施内容は県内の中小・中堅企業に対応し、良い協力、指導関係にあり成果をあげている。地域産業のリーダー研究機関として更に活躍を期待する。</li> <li>・研究開発を工業技術センターとしての活動の柱として、共同研究に重点を置く方向性に関しては評価できる。</li> </ul>					

2 組織体制及び人員配置並びに予算配分					
評価点数	⑤ 0人	④ 3人	③ 2人	② 1人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の構成は分かりやすい。</li> <li>・技術支援部と研究開発部の構成による運営は、評価できる。</li> <li>・人件費がやや上昇し、研究費が微減して、総予算は3年間でほぼ一定となっている。</li> <li>・限られた資源(人員・予算)の中で最大限の効果を発揮すべく、組織運営がなされている。</li> <li>・施設整備費の特電への依存度が高い。</li> <li>・組織も人員も拡充し、もっと多くの予算をつけるべきである。かつての仕訳の時代の、世界最速のコンピューター議論と同様で、将来投資はむしろ積極性が必要であると思える。そういった意味で評価点2とさせていただいた。</li> <li>・職員数が減少しており、この状態が続くと、企業の支援と研究開発の両輪が回らなくなる恐れがあるように思える。</li> <li>・博士号取得者など、素晴らしい人材を有している。更に充実させてほしい。</li> </ul>					

評価点数    ⑤非常に優れている    ④優れている    ③妥当    ②見直しが必要  
                  ①全面的見直しが必要

3 施設・設備等					
評価点数	⑤ 1人	④ 5人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の整備状況、活用状況は妥当。</li> <li>・施設、設備ともに申し分ないと思える。</li> <li>・稼働日数の少ない機器もあるが、工業技術センターとしては民間企業では購入できないような特殊な機器の充実も必要である。</li> <li>・主要機器をリースで使用しているが、毎年、この費用を継続的に確保されることを望む。</li> <li>・企業の設備利用などが更に増えるよう、機器の更新充実と活動PRや、教育活動充実で地域企業の実力向上への支援を期待する（基盤的計測機器は中小企業には整備困難なため）。</li> </ul>					

4 研究成果					
評価点数	⑤ 2人	④ 3人	③ 1人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究員数に比較して多くの共同研究等が行われており、実用化された技術も多い。事前配布の資料によれば多数の学術的な研究成果が得られており、これら基礎研究の成果が実用化につながったものと考えられる。</li> <li>・研究課題については、もう少し県の将来を見た選択が必要と思えるが、研究成果は極めて優れている。能力がおありなだけに、惜しい気がする。</li> <li>・共同研究の成果としての実用化件数や保有特許数などで成果が認められる。</li> <li>・企業からの資金提供による共同研究を実施して、特許を出願している点は、高く評価できる。</li> <li>・誌上発表や口頭発表を数多く行っている点は、評価できる。</li> <li>・企業や他機関との共同研究で成果を上げている。近年、知的財産保護のために特許化しないという判断が増加しているため、成果の指標を検討する必要がある。</li> </ul>					

5 技術相談・指導、普及業務、設備使用、依頼試験、情報提供等の実施状況					
評価点数	⑤ 3人	④ 3人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備使用を重点的に行っている点は、高く評価できる。まずは、地域企業に研究開発の母体を作るという重要な施策と考えられる。</li> <li>・技術相談だけでも、年間7～8千件をこなしており、企業等の要請に十分応えている。</li> <li>・技術相談数が一人あたり、155件/年と非常にかんばっていると思う。</li> <li>・少数の体制の中で非常に良くやっていただいていると思う。</li> <li>・限られた人員で、地域企業に対して多くのサービスを提供している。</li> <li>・既に大きな成果を上げているが、利用企業はまだ限られている。</li> </ul>					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要  
①全面的見直しが必要

6 人材育成					
評価点数	⑤ 3人	④ 2人	③ 1人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の基礎能力、企業支援の能力、組織の管理能力の養成が年齢に応じて行われている。</li> <li>・しっかりとした人材育成プログラムが確立されている。特に、20代での博士号取得を推奨する等、将来に向けた人材育成ビジョンは評価に値する。</li> <li>・職員に博士号を取得させるように指導している点は、将来の組織を考えての施策であり、とても高く評価できる。また、学会発表、誌上発表を推奨している点も評価できる。</li> <li>・博士号取得者など、素晴らしい成果を上げている。</li> <li>・博士号取得率40%と高いことは評価できる。</li> <li>・博士号取得を含め、ステージ毎の目標が明確で極めて良いと思える。</li> </ul>					

7 他機関との連携					
評価点数	⑤ 1人	④ 1人	③ 3人	② 1人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の活性化・発展につながる産業づくりは、他機関との連携の中で課題発展が何としても必要である。</li> <li>・県内・外を問わず一層の連携が望まれる。</li> <li>・他大学との連携や企業との協力ができている。</li> <li>・大学国研究所との共同研究が多い。</li> <li>・他の研究機関や大学、業界、学会と多数の連携実績がある。</li> <li>・他機関との連携を通じ、地域の産業振興を図っていると考えられる。</li> <li>・バイオマスなどの森林資源の利用についての連携には取り組まれているが、今後、桃などの農作物の保存・輸送技術についても連携が行われれば、地域産業の発展に大きく寄与するものと期待される。</li> <li>・県立研究所間の連携をぜひ行ってほしい。</li> </ul>					

8 県民・地域への貢献					
評価点数	⑤ 2人	④ 4人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・良くやっているが、更にPR等、工夫してほしい</li> <li>・一般公開に毎年数千人の参加者があり、また、研究発表会、出前講座、技術講習会、刊行物、メールマガジンなど、多種多様な方法で積極的に情報発信が行われている。</li> <li>・設備使用での貢献は多大である。</li> <li>・企業誘致や企業の技術者育成への貢献度が大きい。</li> <li>・リサーチパークに企業を誘致した点は、高く評価できる。</li> <li>・県民への情報発信はもう一歩踏み込んでアピールしてほしい。</li> <li>・現状の中では、極めて貢献出来ていると思えますが、10年先の県はどうするのかという視点に欠けていると思える。</li> </ul>					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要  
①全面的見直しが必要

## 9 前回指摘事項への対応

前回指摘事項なし。

### 総合評価

評価点数	⑤1人	④5人	③0人	②0人	①0人
------	-----	-----	-----	-----	-----

- ・岡山県の産業施策に基づいて工業技術センターが活動している点は、機関のミッションを十分に果たしていると考えられる。
- ・製造業大手がグローバル展開し市場での現地生産を指向しており、大きな曲がり角にある中で、地域独自技術基盤を世界にアピールできるレベルにまで中小・中堅企業の技術を仕上げる意義はますます大きくなっている。岡山は日本の中でも災害が少なく産業が盛んな地域で、ここでの成果は日本にとっても大きな意義がある。
- ・限られた資源(人・予算)を最大限活用し、成果を上げていることに対し敬意を表す。今後とも、岡山県が「ものづくり県」として認知されるべく、更なる地場企業に対する技術支援への取り組み強化を望みます。
- ・少数の研究職員で、工業技術センターの役割は十分果たしていると思えるし、多くの企業の発展のために尽くしていただいていると判断している。但し、10年先の岡山の産業界を想定する時、極めて危機感を禁じ得ない。今迄の県の強味を精査し、その強味をもっと進化させる研究課題を見つけ出す必要がある。
- ・工業技術センターの核となる研究職員の人材育成としての博士号取得の推奨は、極めて高い評価に値し、今後も継続的に推進してほしい。
- ・少ない人員で一人何役もの役割をこなしている。
- ・研究職員の減少は、産業技術を支援する上でデメリットとなりうることで考えられるので長期的な人材確保の計画が必要と思われる。
- ・論文発表件数や審査員派遣回数が多く、研究員の能力は非常に高いと考えられる。優れた研究を数多く行い、その知見に基づいて地域企業に対して充実したサポートが行われている。
- ・施設整備費の特電への依存度が高く、改善の努力が必要と思われる。
- ・設備使用での貢献が大きいですが、機種選定に利用者の声を反映できれば利用率はさらに上がるのではなかろうか。
- ・行政組織の枠組みを超えた連携が行われれば、県内産業のさらなる活性化につながると期待する。
- ・岡山県の科学者リソースを総括できる組織であると感じた。工・農・土木・環境などの協力もできるのではないか。
- ・全体として良くやってくれている。
- ・外部へのアピールを更に工夫して、岡山に工技ありと言われるようになってほしいし、その力は充分にある。
- ・地元開催学会での世話役などプレゼンスを示せば国プロ受託などにも有利と考えられる。

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要  
①全面的見直しが必要